

ゆずりは通信

第34号 平成30年12月21日

(年2回発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会 平成30年3月定例会

3月14日(水)午後7時～ 福祉センター 34会議室 10人が参加

内容

1. あいちホスピス研究会の総会

* 事業報告・計画と会計報告・予算の説明があった。

都心に設けていた事務所を閉じて、浄土真宗・名古屋東別院に移した。

* 最初のホスピスを作る運動をしていた頃からの特別会計は、今は210万円である。

* 平成30年度の公開講座は1回減らして3回となった。あまり無理しない姿勢のよう。

* 過去の総会では、外部の人が招かれて講演していたが、今回は、永井照代さんの講演があった。今までに心を打った、文章など、たくさんの資料が配布された。

2. 近所のこと

* 父、母、娘の3人家族が近所にいる。

母親が暴力をふるうので、困っている、どうしたらよいか、と娘から相談を受けた。

父親は認知症気味である。周囲の人に状況を話して、支援を求めたいが、個人情報話を話してよいものやら。

* 家族の意思を尊重すべきだから、その娘さんと率直に話し合ったらどうか。

* 認知症にはいろいろな症状があり、対処も変わってくるので、それなりの勉強が必要である。

3. 地域社会の分解が始まっている。

区民をやめたい家族がある。

葬式を内輪でやり、隣近所には連絡もしないケースが増えた。

4. 豊田市若竹病院が、4月に開院する

* 豊田市の南部、竹元町に、建設された。

* 一般病床50、療養病床150、回復リハビリ病床50の規模

* 古谷愛晴院長(50歳)は豊田市の出身である。

ゆずりはの会 平成30年4月定例会

4月11日(水)午後7時～ 福祉センター 34会議室 12人が参加

内容

1. 「脳梗塞のサインを見逃すな」 豊田厚生病院の市民公開講座 神経内科部長 伊藤瑞規 平成 30 年 3 月 17 日

① 脳梗塞のサインの特徴は、「半分・半身」に現れる。

主な例としては以下のよう

* 舌の左方偏倚 左側が麻痺

舌を出すと、左に寄る。

* 左右どちらかの顔のしわが浅くなる。

* バレー徴候

両手を前に出して肩まで上げる。手のひらを上にして、目をつぶる。

片方の手が下がったら、脳梗塞の疑い。

② 聴講者が一杯で会場に入り切れなかった。公開講座始まって以来と言っていた。

それほどに多くの方が脳梗塞とか脳卒中に関心があるという事だろう。

2. 「こどもの貧困」 傾聴ボランティア情報交換会

豊田市福祉総合相談課 國長稚佳子 3 月 24 日

① 豊田市の貧困の子ども数は、5.4%で、全国平均の 13.9%よりは低いが、3,922 人と多い。

現在の暮らし向きを「苦しい」と答えた人の 71%は母子世帯である。

心身ともに居場所が不足している。地域の人に知られたくないので、相談しにくい。

傾聴ボランティアの活動を、困っている子供たちのために生かすようにしたい。

子どもの貧困を知ること、学ぶことを積極的に行いましょう

② 民生児童委員をしていた頃、

困っている子供の世帯が、申請すれば、支援が出来るので、民生委員が自らの足で探さない、との指示が回って来た。

行政では、様々なデータを持っているので、ピックアップしようと思えば、可能なのに、民生委員に探させようとする。付き合いの薄い現在では、とても難しい。もっと行政が打てる手がある、と思う。

3. 認知症カフェ

* 認知症カフェを開催しようと思っているが、ボランティアの協力が必要となっている。

「どうしたらボランティアへの参加を呼び掛けられるだろうか」

* 社会福祉センターで、例えばボランティア連絡協議会を開催しているが、こうした場で呼びかけることが一つの方法である。

* 認知症への取り組みを活発にする目的で、資格取得制度がある。

この度 やっと 試験に合格した。近いうちに、そこで学んだことを紹介したい。

4. 高齢者用の住宅の建設

自分も、近くの高齢者も住まいが無いので、自宅の土地を利用して、サービス付き高齢者住宅を建設しようとしてきた。今は矢作建設が相談に乗ってくれている。

5. 満州からの引き上げ

- * 終戦後、満州から引き上げて来た。食料がない中で、歩き疲れて、第二人を死なせてしまった。その時の悲しみ あるいはその当時の生活を忘れることはできない。絶対に戦争をしてはいけない。そうした思いで、小学校に話に行っている。
- * 以前に自分の体験談を本にして発行したが、再販した。今回は、話を聴いた小学生の感想文を掲載してある。

6. 見学者の参加

榎原さん: 益富地区が様子を見に参加されました。

ゆずりはの会 平成 30 年 5 月定例会

5 月 9 日(水)午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 9 人が参加

内容

1. あいちホスピス研究会 公開講座 平成 30 年 3 月 31 日

「自分らしく生きる」を支える」石垣靖子氏

* 講師略歴

1938年樺太生まれ

北海道大学医学部附属看護学校 卒業

北海道大学医学部附属看護学校 専任講師、教授。

東札幌病院 看護部長、副院長などを歴任

市民とともに創るホスピスケアの会 代表

- * 略歴に記すように、看護師として奉職し、患者が苦しむ姿をたくさん見て来た。医療関係者の無知、医療の仕組み、家族の誤解など、色々な理由があった。患者に寄り添う看護師として、石垣さんはできる限りのことをしてきた。その経験から、後輩の看護師たちに、「看護師がやれることがある、勇気を出して、患者に寄り添いましょう」と呼びかけた。

2. 夜中に転んだ

- * 先日、夜中に家で転んで、顔(頭)を強く打った。「危ない」と思い厚生病院に行った。救急車を呼ぶと、近所など、大ごとになると思い、自分で車を運転していった。CT を撮ったが、何の異常もないと言われた。これをきっかけに、自分の身の回りのことができなくなる時が、近づいたことを自覚した。まず、配食サービスを受けることにした。

* 日本国憲法第 25 条

第 1 項 : すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

第 2 項 : 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

以上の様に定められているが、自分の周りを見回して、それが、実現されていない人が沢山いる。

自宅の土地に、サ高住か、老人ホームか、老人用の住宅を作りたい、と思っている。

* みんな、自分のことができなくなり、不自由になってゆく。お金があるなら、自分の直近の生活が成り立つようにお金を使うべきではないのですか？

介護保険も利用すると良い。車椅子も補助が受けられると思う。

* 自分の土地を売って、老後保障に使おうとは思わない。人さまの役にたつことに使いたい。

ゆずりはの会 平成 30 年 6 月定例会

6 月 13 日(水) 午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 12 人が参加

内容

1. 第 3 回あいちホスピス研究会 公開講座 の紹介

スピリチュアルケアの意味→命を支える 窪寺俊之氏 : 聖学院大学 人間福祉学研究科

終末期癌患者の身体的苦痛については近年ほとんど取り除くことができるようになった。精神的、社会的苦痛に対する理解、対応も進んでいる。

しかし、患者が最期に求めているスピリチュアルペイン(霊的苦痛)へのケアは、ほとんどの医療現場で置き去りにされている。実は、終末期の患者が本当に求めているのは、心の不安や恐れ、寂しさへのケアである。高齢者や障害者に対する社会福祉についても、生活支援だけでは不十分で、孤独や寂しさに寄り添って支えてくれる人が欲しい。

実際にはホスピス病棟のチャプレンが、長野のお寺ホスピスではお坊さんがその役目を担っていると聞きます。

ボランティアの長所は、「一緒に居る、孤独にしない、話し相手になれる。時間的、業務的制約がない分、自由度が高い」など スピリチュアルケアに向いている。

2. 関西学院大学 ラグビー部のお祈りの紹介

ゲームの前には、聖書の朗読

大切な試合の前には、詩を朗読する、下記に詩の一部を記載した。

偶然の利益は、騎士的に、潔く捨てよ。

言い訳せず品位を持ってまけよ。

堂々と勝ち、堂々と負けよ。

汝を打ち破りし者に、最初の感激を、汝が打ち破りし者に感動を与えよ。

3. サラリーマン川柳の優秀作の紹介 第一生命保険が行った人気投票の結果

スポーツジム 車で行って チャリをこぐ

ノーメイク 会社入れぬ 顔認証

効率化 進めて気づく 俺が無駄

4. 次回の定例会では、認知症の傾向があるかどうかを教えてくれるテストを実施予定です。